

魔法のプロジェクト活動報告書

報告者氏名：千松 聡司

所属：大阪府立思齊支援学校 小学部

貸与機器（使用機器）：iPad iPadmini

【対象児の情報】

・ 学年 小学部 3 年生（9）

・ 障害と困難の内容

◎知的障がいを伴う自閉症

【活動目的】

・ 今年度のねらい

- ① 困ったことがある時に、好ましい表現や自身で解決する術を知る。
- ② 自分のスケジュールを知ったり作ったりし、できることを増やす。

・ 実施期間

R4.4.1～R5.2.27

・ 実施者

千松 聡司

・ 実施者と対象児の関係

クラス担任

【活動内容と対象児の変化】

〔対象児の事前の状況〕

○対象児童の状態

- ・ 太田ステージ III - 1 後 療育手帳 A (重度に相当)
- ・ 発語がある。発音は稚拙だが概ね通じる。
- ・ いわゆる逆さバイバイやエコラリア等、特徴的な行動がある。
- ・ 衝動的に走り出すことがある。
- ・ 自ら他人に働きかけることは少ないが、人は好き。
- ・ 困ったときは、唸るような声を出すことが多い。また、爆笑してやり過ごす (回避する) 様子も見られる。
- ・ 身の回りのことはほとんどできるが、食べることに関して課題が多い。
- ・ 感触遊びが好き。
- ・ 粗大運動が好き。
- ・ 危険認知が低く、(屋外でも) 急な飛び出しがある。

○学習面

- ・ 文字は未習得。
- ・ 絵本や図鑑に出てくる名詞をよく覚えている。
- ・ 口頭指示を聞いて行動できる。
- ・ イラストや色の弁別ができる。
- ・ 本を見て挿絵やイラストの名詞を隅々まで言うことが好きで、自分なりの手順や順序がある。
- ・ 行動をする時に、周囲の大人の様子を伺う。
- ・ 自身でアプリを選択したり、youtube のオススメから好きな動画を選択したりできる。

○保護者の希望

- ・ 人とのコミュニケーションが少しでもできるようになって欲しい。
- ・ 自分でできることを増やしたい。

〔活動の具体的内容と事後の変化〕

① 困ったことがある時に、好ましい表現や自身で解決する術を知る。

i) 「先生」にサポートを求めることができる。

自身の好きな絵本を読む際、文字が読めないことから困った時に見られる行動があった。(笑ったり、唸ったり)

まずは、身近な大人の手を借りる方法を身につけるため「せんせい」と呼ぶと助けが来ることを学習していった。はじめは、上記のような困った時の行動が頻繁に見られたが、徐々に自発的に「せんせい、これなあに？」と問えるようになってきた。

家庭でも同様にできることが増えてきたとのこと。

ii) 苦手な食べ物を好ましい方法で減らすことができる。

給食では、一つずつ確かめてから口に入れる様子が多かったこと、口に入れた物を吐き出したリ机に擦り付けたりする行動が見られたため以下の2点を行った。

(1) 食事の時に「減らしたい」ことを伝える

減らす・終わるタイミングを自身で調整しやすいよう、呼び鈴と絵カードを使って知らせる活動をした。(図1)

食べられる物がないと判断した時は、自身のタイミングで「ごちそうさまでした。」と言い、食事を適切な方法で終わることができるようになった。



(2) 食材が何かを写真等で確認する

調理工程を見ていると食べられる物もあるとのことで、見た目では分かりにくい食材は写真で確認をするようにした。その物の正体が分かると食べられる物もあった。

iii) 読みたい絵本を、自身で読むことができる。

好きな絵本を読みたい時に、文字が読めない困り感があった。そこで、好きな絵本に音声をつけて提示する(図2、3)と、時間いっぱい楽しむことができるようになった。



図2



図3

音声付きの絵本は『Drop Talk』で作成し、タップすると音声が流れる。好きな絵本を読むタイミングでアプリを開くように促した。操作が分かると絵本とタブレットを見比べながら楽しむことができた。(図4)



図4

② 自分のスケジュールを知ったり作ったりし、できることを増やす。

i) 活動の終わりや始まりが分かり、自発的に行動することができる。

活動の節々でタイマーをセットし、場面の切り替えが分かりやすいようにした。タイマーは、視覚的にも分かりやすい物を選択した。

『トーキングエイド タイマー』(図5)

タイマーの音を聴いて、活動の切り替えができるようになった。

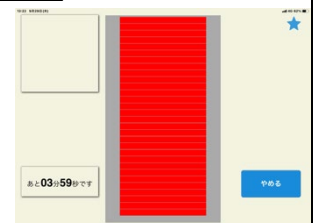


図5

ii) 学校の準備ができる。

登校後や下校時の準備や片付けが定着しており、家庭でもできることを増やすために、毎日持ってくる物を自分で準備できるように、持ち物チェック表を見ながら準備する練習を始めた。始めてからおよそ3ヶ月程度で、手順通りに準備ができるようになったとのこと。

1	おむろ	
2	きがえ	
3	かばん	
4	れんらくちょう	
5	たおる	
6	こうないふく	
7	きゅうしよく (えぶらん・はぶらし)	
8	ずいとう	
9	ねる	

図 6

iii) 休み時間の過ごし方を自身で選択できる。

授業の合間等、手持ち無沙汰な時間に教室をとり出たり、教室を走り回ったりする様子があった。休み時間にする活動を選択し、それが叶う経験を積むことで落ち着いて過ごせることが増えてきた。『DropTap』を使用し、写真と音で選択できるようにした。(図7) 徐々に選択肢も増えてきている。



図 7

また、タブレット等がなくても、「～～に行ってきます。」と伝えてから向かうことができるようになった。

iv) クラスでの役割を遂行できる。

朝の会、帰りの会では前期は、「歌係」をしている。クラスメイトの話を聴いて、「歌」のタイミングで席を立ち、音頭をとって歌うことができるようになった。後期は、「予定確認の係」をしており、時間割を周知する活動をしている。また、ごみ捨てや掃除等も積極的に行っている。

【報告者の気づきとエビデンス】

〔主観的気づき〕

- ① タブレットや絵カード等の視覚支援があると、好ましい表現を獲得できるのではないか。
- ② 自分のスケジュールがあることで、落ち着いてできることが増えるのではないか。

〔エビデンス〕

- ① タブレットや絵カード等の視覚支援があると、好ましい表現を獲得できるのではないか。

i) 給食について

以前は食べられない物を壁や床に嘔き出したり、机に擦り付けたりしていたが、取り組みの中で「いつでも終わっていい」安心感を作ることで、徐々にそのような回避行動は減ってきた。

～エピソード～

- ・旧担任より、「H くん食べ方がめちゃくちゃ綺麗になってびっくりした。」「去年は一人壁を向いて食べなければいけなかったのに、皆と同じ方向で食べられているのがすごい！」

- ・保護者より「家でも以前より嘔き出すことが減ってきました。外食も行きやすくなったかな。」
- ・担任外の教師より「1年生の頃から知っているが、色々できる（食べることについて）ようになってすごいですね。」

ii) やりたいことや休み時間の使い方について

何をしたらいいか分かりにくい時間に、自分のすることを決定する経験を重ねた。はじめは選択肢から選んでいたが、徐々に選択肢がなくても教師に伝えることができるようになった。

～エピソード～

- ・はじめは、授業の合間や給食後等の休み時間にすることが分からずに困っていたが、選択肢があると落ち着いてやりたいことや行きたい場所に行くことができるようになった。
- ・繰り返し取り組む中で、「ワークスペース」「えほん」「きくん室」「みまわり」等、自発的に言える言葉が増えた。

iii) 急な飛び出しや危険と思われる行動について

- ・上記に関連するが、スケジューリングやルーティンの中で‘いつ叶うか’がはっきりすることで、急な飛び出しや危険だと思われてしまうような行動は減少した。

～エピソード～

- ・給食中に、他学年の児童の声に反応して教室を飛び出ることが多かったが、状況を確認したいという理由があった。その際に、「みまわり行ってきます」と伝えてから教室を出ることで、状況確認が終わって安心すると教室に戻って普段通り過ごすことができた。

② 自分のスケジュールがあることで、落ち着いてできることが増えるのではないか。

i) 休み時間の使い方について

はじめは選択肢から選んでいたが、徐々に自発的に言葉のみで表出できるようになってきた。

それは、日々のルーティンの中で行動と時間が結びつき、自身のスケジュールとして確立したからであると見受けられる。

朝～下校までの流れは図8のような形である。次第にスケジュールを確認することも減り、自身の要求や表出のみで行動するようになった。

当初よく行っていた絵本読みや、小さいボールを握ねて遊ぶようなことは、教師に勧められると行うことが多くなり、自発的に行うことは減ってきた。



図8

～エピソード～

- ・着替えが済んだら、「ワークスペースに行ってきます。」と言い、ボールやトランポリンで遊ぶ。
- ・給食が済んだら、「みまわり行ってきます。」と伝えてから状況を確認しに行き、その後「プレイルーム行ってきます。」と言って、トランポリンや縄跳び等で遊ぶ。
- ・授業中の飛び出しがほぼ無くなった。

〔その他エピソード〕

保護者より

- ・以前はあまりなかったが、親の食べている物に関心を持つようになった。
- ・「手伝って」や「してください」等、何か要求があることを伝えられる場面が増えた。

- ・興味広がってきて、以前は見なかったような動画を見るようになった。

学校では

- ・友だちや担任外の教師にも、同様に伝える場面が増えた。(汎化できつつある)
- ・女兒が着替えるカーテンの中にロッカーがあるが、カーテンが閉まっている時は女性教師に自分の荷物の片付けを依頼できるようになった。(以前は入ってしまっ注意されることが多かった。)

【今後の見通し】

- ・スケジュールに幅を持たせ、興味関心を広げていく。
- ・表出の方法を学習し、2～3語文でのやり取りを身につける。
- ・日々の生活をスケジュール通り行うことでそれがルーティン化するが、それを汎化させていくことが今後の課題となる。